

群 教 セ	G02 - 02
	令7.290集
	社会 - 小

自ら学び、深める社会科学学習

—自己選択学習と小課題の設定を通して—

特別研修員 山崎 哉子

I 研究の概要

1 主題設定の理由

群馬県の教育ビジョンでは、「ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」を最上位目標に掲げている。これを基に群馬県教育委員会では、教師が「させる」授業から生徒が「する」授業への転換を目指している。また、研究協力校の研修主題は「自己調整力を高め、主体的に学ぼうとする児童生徒の育成」であり、児童が自分で学びを振り返り、調整する力を高めるために効果的なICTの使い方について研究している。

児童の実態として、事前のアンケート結果より、歴史の学習を楽しみにしている児童や、自分の考えをもとうとする児童が多く見られた。一方で、意見交流を経て、そこから自分の考えを深めることや、必要な資料の選択に課題がみられる児童もいる。

そこで、本研究では、単元を通して自己選択学習を取り入れることで、児童が学びを設計し、自走できる環境づくりを行った。その中で、「深まりシート」を活用することで、児童が自らの学びを分析・評価し、自己調整力を発揮しながら学び続けることができるのではないかと考えた。更に自己選択学習で習得した知識を小課題の解決に活用し、知識の定着を図る。解決の過程において「社会的な見方・考え方」を働かせ、事象を多角的に捉えることの有用性に気付かせることで、社会科に対する知的好奇心及び学習意欲を喚起したいと考え、本主題を設定した(図1)。

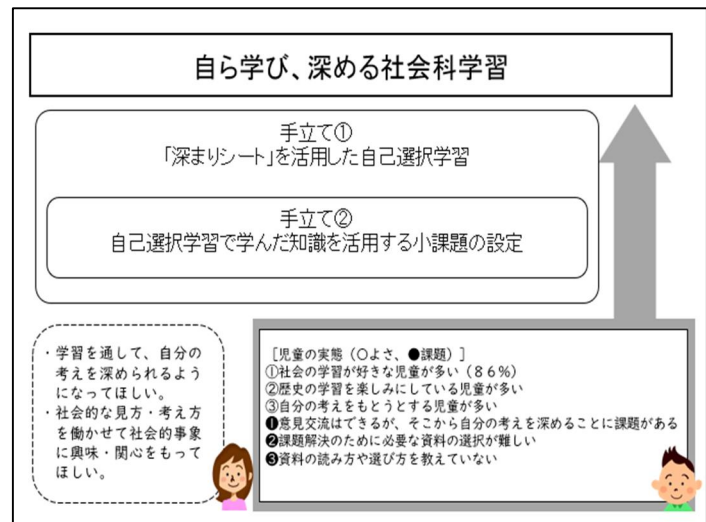


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

手立て1 「深まりシート」を活用した自己選択学習

自己選択学習とは、学習計画表(資料1)に基づいて、児童が「学習内容、情報手段、表現方法、時間配分」を選択し、見通しをもって自己調整力を発揮しながら進めていく学習方法である。

毎時間、授業の終末には、「深まりシート」(資料2)を活用し、児童が自分の考えの深まりを4視点(追加・変化・強化・進化)で分析する。4視点の定義は、新たな考えや学び方を手に入れたときは「追加」、自分の考えに変化があったときは「変化」、自分の考えや学び方に自信がもてたときは「強化」、自分の学び方について成長を感じたときは「進化」とし、児童は1単位時間の自らの学びを振り返り、視点を選択する。

追究する過程では、児童が前時までの学習計画表や「深まりシート」を見直して、本時のめあてや学習方法を加筆・修正するところから学習を始める。そこで本時の見通しをもち、計画を立てて学習を進める自己調整力が発揮されると考える。

手立て2 自己選択学習で学んだ知識を活用する小課題の設定

手立て2は、児童が手立て1の自己選択学習の中で学んだ知識を活用し、社会的な見方・考え方を働かせて思考できる小課題を設定するものである。一つの歴史的事象について、身分や思想が異なる人の視点や、地理的な位置・分布の視点から比較・分類・関連付けを行うことで、多角的な視点で物事を捉える必要性やおもしろさに気づき、深く思考する力を身に付けられると期待する。また、この小課題を解決する過程で、自己選択学習で学んだ知識を定着させることができると思える。

II 実践例

1 単元名 「戦国の世から天下統一へ」（第6学年・2学期）

2 授業の実践

本時は全7時間計画の第6時に当たる。児童は第1時に単元の課題と学習計画を作成し、第2時から第5時まで計画表に沿って、自己選択学習を行った。その中で、児童は織田信長と豊臣秀吉が天下統一に向けて行った政策について調べ、両武将の政策は、本人にとってどんなメリットがあったのかについて考えてきた。本時では、前時までの自己選択学習で得た知識を活用しながら、両武将が天下統一に果たした役割に迫るために、武士や庶民の視点から両武将の政策を評価し、メリットやデメリットについて考えた。

(1) 手立て1について

つかむ過程（第1時）の初めに、室町時代に応仁の乱から幕府の権力が弱体化した結果、各地の大名の力が強まり世の中が混乱したという史実から、織田信長・豊臣秀吉が天下統一に向かっていった過程を地図で示した。児童はそこから、「織田信長と豊臣秀吉はどのようにして戦国の世を治めていったのか」という学習問題を作った。

次に学習計画表を配布し、児童が第2～5時間目までの「学習内容、情報手段、表現方法、時間配分」を自分で選択し、追究する過程の計画を立てた（資料1）。

追究する過程（第2～第5時）では、1時間目に立てた計画に沿って調べ学習を進めた。児童は教科書や資料集だけでなく、図書室の本や学習動画など各自が選んだ方法で情報収集を行った。調べたことを表現する方法としては、学習支援ソフト

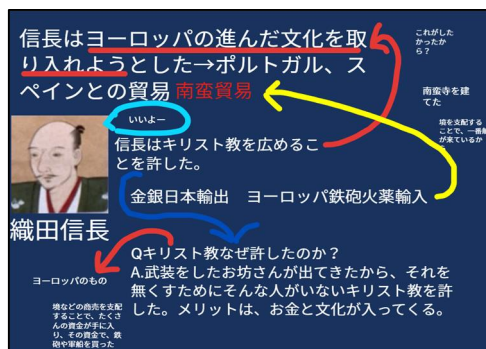


図2 児童のまとめ①

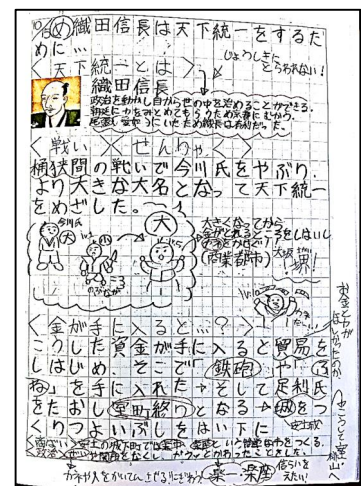


図3 児童のまとめ②

を選択した児童が多かった（図2）。2割程度の児童はノートに、1割程度が、教師が用意したワークシートに記録していた（図3）。シンキングツールを使ったり、調べた事実を、矢印を使って関連付けたりしながら、思い思いの表現方法でまとめていた。互いの学習支援ソフトやノートを見せ合って、表現方法を変更する児童や、効果的なシンキングツールについて話し合う児童もいた。調べた内容やそこから考えられること、追究の過程で出た疑問などは、児童が黒板に記述し、クラスで共有された（次ページ図4）。学習を進める中で、黒板を見ながら、友達が疑問に思ったことについて調べ、自分が考えた解答を板書する児童がいた。また、友達のノートや板書を撮影し、学習支援ソフトに取り込み、参考にする児童も見られた。

毎時間の終末5分間を使い、学習支援ソフトで配付した「深まりシート」（資料2）に、まとめ・深まりの視点・振り返りを記入し、学びの蓄積を行った。まとめには、本時で調べた事実やそこから考えたことを記入し、振り返りには、その時間の自分の学び方や、自分の考えの深まり方について分析し記入するよう伝え、分別化を図った。児童が自分の考えの深まり方について自覚できるようにするために、「追加・変化・強化・進化」という深まりの4視点を与え、その時間

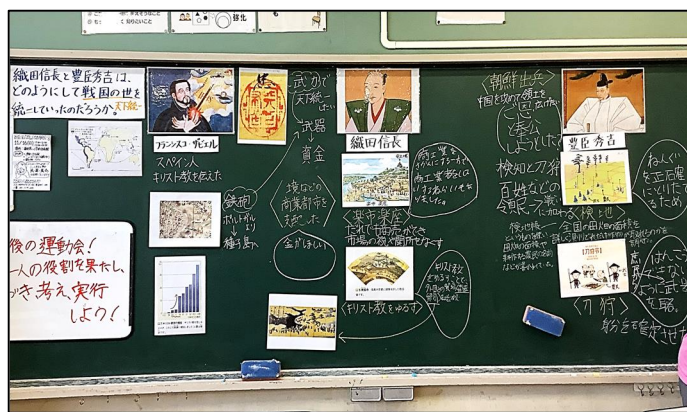


図4 児童が書いた板書

に感じられた視点に○を付ける形にした。児童の振り返りには、「友達と話すことで、新たな考えに気付いた。（追加）」「何をしたかだけではなく、何のためにしたかを書く则分かりやすいと思ったので、次回はこの方法で調べようと思った（強化）」など、自分の考えや学び方の深まりについて記述されていた。

授業の初めには、児童が学習計画表と「深まりシート」を開き、前時のまとめや振り返りを見返しなが

(2) 手立て2について

第5時後半に、グループごとに自分たちが調べた両武将の政策を学習支援ソフトの表に整理した。その際、「織田信長は、楽市楽座によって自分の城下町を栄えさせることを狙った」「秀吉は検地によって確実に年貢が手に入る制度を整えた」など、両武将は自分自身にメリットがある政策をたくさん考えていたということに気付くことができた。このとき、児童によっては、手立て1の自己選択学習で調べきれなかった政策についても、確認することができた。

庶民の立場から2人の政策の良いところ・いやなところを整理しよう			
政策名	織田信長の政策	秀吉の政策	
良い	楽市楽座 自由に商売ができる。 税金を取られない	キリスト教を保護した	良い 自分の畑の広さがよくわかる。 みんなの取られる年貢の量が平等になる。
やだ	往来する商人は城下の道路に通り城下に止まらないといけない。	キリスト教が日本人を誘拐して行くことがある。	やだ 暖をつけない 秀吉の政策に嫌なところがある 仕事が増える。

図5 児童の学習支援ソフト

そこで、本時（第6時）では「両武将の元で生きる武士や庶民の立場から、二人の政策を評価する」という、自己選択学習で学んだ知識を生かして、多角的な視点から両武将の政策について考える小課題を設定した。児童は、戦国時代の武士と庶民の生活の様子を記したプリントから当時の生活を想像し、「自分の立場から見て、両武将の政策にメリット・デメリットはあるか」を考え、学習支援ソフトの表に書き込んだ（図5）。児童は前時にグループで整理した表を見返して、両武将の政策がどのようなものだったか確かめながら、武士や庶民の視点からメリット・デメリットを考えていた。また、黒板に掲示された戦国時代の武士や庶民の生活を描いた絵図を見ながら、お互いの考えを共有する児童もいた（図6）。

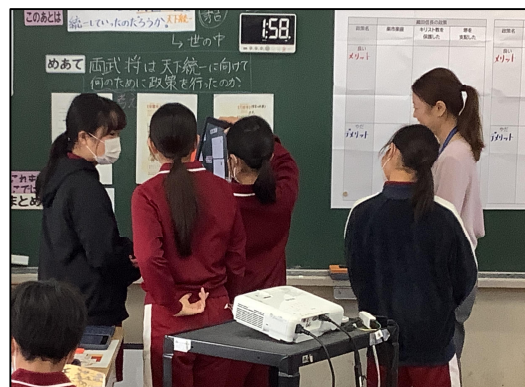


図6 立場の違う児童同士で交流

また、黒板に掲示された戦国時代の武士や庶民の生活を描いた絵図を見ながら、お互いの考えを共有する児童もいた（図6）。

全体共有の時間には、豊臣秀吉の政策「刀狩」に対して、武士側から「庶民が反抗してこなくなるので平和になるからよい」「戦う力が下がるのが嫌だ」、庶民側から、「戦いが減って平和になりそうだからよい」「何かあっても反抗できないのは困る」といった意見が出た。立場の違いからくる意見の違いや、同じ立場でも人の考え方には違いがあることに気付くことができた。

児童が「深まりシート」に記した本時のまとめには、「両武将は天下統一に向けて武士にも庶民にもバランスよくメリットがあり、みんなに納得してもらうための政策を考えた」「両武将は天下統一のためになるべく公平で、いろんな立場の人が納得できるような政策を行った」など、両武将が天下統一に向けて果たした役割について多角的に考えている様子が見られた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 学習計画表や「深まりシート」の記述を見ると、前時までの学び方を振り返る活動や、他者との交流を通して、児童が自ら本時の学習計画を立て直したり、新たな考えに気付いたりしていることが分かる。このことから、自己選択学習を取り入れたことで、児童が自己調整力を発揮しながら学習を進め、自らの考えの深まりを自覚することができるようになったと考えられる。
- 実践後のアンケート結果から、「自己選択学習をして、自分の学ぶ力がついたと思う・まあまあ思う」と回答した児童が9割を超えた。自由記述（表1）を分析すると、児童は「自分の学びを見通す力」「計画立てて学びを進める力」「他者との交流や資料から考えを深める力」を自覚できていることが分かる。このことから、自己選択学習が自己調整力を高めるために有効であったといえる。

表1 アンケートの自由記述（一部抜粋）

「思う」「まあまあ思う」と答えた児童の自由記述	
児童A	自分のペースで進められるし、自分で足りないと思ったところを優先的に学べるようになった
児童B	みんなと意見をまとめて自分の考えが前よりも深まるようになった
児童C	ただ調べるだけじゃなくて、友達と話したりいろいろな資料を見たりして、「何でそんなことをしたか」を考えられるようになった

- 自己選択学習の時間だけでは、両武将の主要な政策やその意味について十分学びきれなかった児童もいるが、小課題を設定することで知識の補填や定着を図ることができた。
- 別の単元の学習でも、歴史的事象について、職業や思想、地理的条件や政治的な環境など様々な視点から考え、話し合う様子が見られた。このことから、自己選択学習の中に小課題を設定したことで、児童が一つの事象を多角的な視点でみることの必要性に気付き、考えを深めることができたと言える。

2 課題

- 自己選択学習では、学習した内容をまとめる際に、教科書の文章をそのまま写してしまう児童がいた。単元の課題に関わる箇所を抜き出すよう助言し、分かりやすくまとめている児童のノートを共有して参考にできるとよかった。
- 「深まりシート」に記入するまとめと振り返りの内容が重複する児童がいた。振り返りには本時の自分の学び方について記述できるよう、正しく書き分けている児童のシートを共有して書き方に慣れさせることで、より自己調整力を発揮して学習を進められると考える。
- 教師が児童の進度や疑問を常に把握し、必要としている資料を適切なタイミングで提示したり、タイムマネジメントを工夫したりといった臨機応変な対応を行う必要がある。

IV 資料

1 自己選択学習「学習計画表」

「戦国の世から天下統一へ」 学習計画表

2組 名前 ()

④ 織田信長と豊臣秀吉はどのように戦国の世を治めたのか。

自己選択学習 (2~5時間目でやること)	教科書	資料集	その他
【まとめ】が書けたらチェックしよう			
✓ 戦国の世で、日本とヨーロッパにはどのようなかわりがあったのか。	教 P67(年表) P68~69	P58~61	本 NHK for school
✓ 織田信長は、天下統一をするために、「何を」を「何のために」行ったのか。	教 P67(年表) P70~71	P60~61	地図帳
✓ 豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのか。	教 P67(年表) P72~73	P62~63	チェックテスト (クラスルーム)
もしも時間が余ったら・・・ 戦国時代の武士の暮らし・庶民の暮らし (衣食住や仕事) を調べてみよう	インターネット (ロイロにあるもののみ)		

日付	【めあて】⇒【選択】○学習内容 ○情報手段 ○表現方法 ○時間配分
10/16	(自己選択30分 共有10分) 日本とヨーロッパにはどのようなかわりがあったのかを言周べる。ザビエルのことについて時間かあまた言周べる。教科書、ノート、資料集を使う。(本も使うかも)
10/17	(自己選択30分 共有10分) 織田信長が天下統一をするために何をしたかを調べ、金矢ほうを効くてにできたことを調べる。教科書資料集、ノート、NHKを使う
10/20	(自己選択30分 共有10分) 豊臣秀吉が天下統一を進めるために何をしたのか、 ^{てびす} 名字がなぜ2回変わったのかを言周べる。チェックテストをする。教科書、資料集、ノートを使う NHKを使う
10/22	(自己選択20分 グループ活動20分) もっと詳しく言周べたいことがあたら言周べ、何もなかったら本やチェックテスト、見直しをする。
小課題 10/23	両武将は天下統一に向けて何のために政策を行ったのか

2 学習のまとめや学び方を振り返る「深まりシート」(学習支援ソフトで作成)

深まりシート			
日付	まとめ	深まりの視点	振り返り
1 14		追加 変化 強化 進化	戦国時代マスターに俺はなる。
2 15	ヨーロッパからキリスト教や鉄砲などの物が日本にきて、とても栄えた。貿易をしたり宗教を教えてもらっていた。	追加 変化 強化 進化	くんの疑問がいつも自分では考えられないようなことで、話を聞くと新しいことがたくさんわかりました。
3 17	信長は商業都市を支配し、手に入れた資金で軍を強くしていった。楽市楽座という政策をして人が安土に集まるようにした。	追加 変化 強化 進化	何をしたらただじゃなく何のためかを書くことがわかりやすくなった。次回をこの方法で調べたいと思った。
4 20	秀吉は検知と刀狩りで身分を確定させたり反抗できないようにして、天下統一をした。	追加 変化 強化 進化	さんが考えた秀吉が朝鮮に挑戦した理由がすごくいい考えで追加しました。
5 22		追加 変化 強化 進化	班でまとめてみて意外と内容はわかるけど何故やったかが難しかった。他のはんのも見て確かにそれもあったなと思いました。
6 23	両武将は天下統一に向けて、庶民や武士に反乱されないように庶民と武士の幸せを考えて政策を行っていた。	追加 変化 強化 進化	自分の意見が他の人とは違って色々な人の立場で考えることが大切だと知った。